

高1

富田林英語 120分	富田林高校対象の学校準拠講座です。夏休み明けの宿題考査に向けて、高校入学以降に学習した英文法の総復習と、大学受験に向けたさらなる実力養成のための問題演習も行います。また、より理解を深めるために、先取りの文法の学習も行います。
富田林数学 120分	富田林高校対象とした数学の講座です。富田林高校の進度に合わせて、9月以降に習う単元の先取り指導を行います。数学Iの2次関数の後半は、今後の数学を学習していく上で非常に重要な単元です。解説と問題演習を通じて、この単元の確実な定着を目指します。
河南英語 120分	河南高校対象の学校準拠講座です。夏休み明けの宿題考査に向けて、高校入学以降に学習した英文法の総復習と、また、より理解を深めるために、先取りの文法の学習も行います。
河南数学 120分	河南高校対象とした数学の講座です。1学期に習った単元の復習を行います。また9月以降に習う単元の先取りも行います。学校の進度に応じてカリキュラムが組まれており、丁寧に指導して定着を図ります。

高2

ハイレベル英語	構文理解から英作文まで対応できるように、英文法の応用の方法を学びます。入試頻出の重要単元「文型」「準動詞」にしまり演習、解説を行います。基本事項の整理が行われていることを前提として指導を行なっていきますので、事前に該当範囲を復習しておきましょう。
スタンダード英語	文法問題に対応できるように、「文型」「準動詞」にしまり演習、解説を通して基礎の整理を行います。様々な形式の文法問題を解けるようにするだけでなく、構文理解につながるように指導します。文法の基礎が固まっていない方や、夏期講習から入会される方にもおすすめの講座です。
英文読解	大学入試頻出の「itを含む構文」と「挿入」について、難関大入試問題の英文を用いて指導を行います。代名詞だけではなく、形式主語・形式目的語や強調構文などでも用いられるit、加えて難読文でよく見られる「挿入」についてここで整理しましょう。
理系数学	数学II三角関数・数学B数列を解説・演習します。数II・Bは入試頻出分野で構成されており、基本事項の理解が必須です。問題演習を通してこの単元を確実なものとしします。
文系数学	数学II三角関数を中心に、解説・演習します。数II・Bは難しい単元ばかりで構成されており、入試で頻出です。基本事項をしっかり理解し、標準的な問題を確実に解けば、センター試験で十分合格点を目指せます。基本事項を中心に解説し、この単元を確実なものとしします。
スタンダード数学	これまでに習った単元の中から重要単元の復習を行います。センター試験レベルの問題が解けるようになることが目標です。
現代文・古文	現代文・古文を各2日扱います。正確な知識にもとづく「正しい読み方」をさまざまな文章で演習します。現代文では特に評論文の演習の中で「対比構造」や「具体と抽象」の把握を中心に確認し、古文では用言・助動詞など知識面の確認だけでなく、人物関係の把握方法なども読解演習の中で提示します。

高 3

<p>ハイレベル英語 180分</p>	<p>英文読解では、長文化傾向にある難関大の入試問題に対応するために、素早く読んで内容を解釈する技術である「パラグラフリーディング」を指導します。英作文では、長い和文を英訳する際に必要となる「節の処理の仕方」について指導します。実戦的な読解力と減点されない解答作成能力を身につけます。</p>
<p>スタンダード英語α 180分</p>	<p>読解編では長文を読む技術である「パラグラフリーディング」の基礎を指導し、実戦的な読解力向上を目指します。文法編ではありとあらゆる大学入試問題に登場する整序英作文を、出題率が高い文法事項を中心に指導し、入試問題に対応できる英語力を身につけます。</p>
<p>スタンダード英語β 180分</p>	<p>大学入試で最も大きな割合を占めているのが英文読解です。長文を素早く読んで内容を解釈するためには英語を一文一文読む力に加えて、論理的なつながりを意識する必要があります。この講座では長文を読む技術である「パラグラフリーディング」の基礎を指導し、実戦的な読解力向上を目指します。</p>
<p>センター英語</p>	<p>センター試験の英語は独特の問題形式で、かなりの量の問題が出題されます。その攻略に向けて、予想問題を用いて演習・解説を行い、設問形式ごとの解法を指導します。また、制限時間内に解答し、高得点を取るための時間配分なども含めて、実戦的な攻略法を伝授します。</p>
<p>理系数学 180分</p>	<p>数学ⅠAⅡBからは「確率」「数列」「ベクトル」といった入試頻出の重要単元を、数学Ⅲからは「微分法」「積分法」を中心に扱います。頻出問題を扱いながら基礎知識を確認して弱点補強をし、入試問題を解くための知識と技術を身につけます。</p>
<p>文系数学</p>	<p>数学ⅠAⅡBの入試頻出単元についての問題演習を行います。基礎知識を確認して弱点補強をするとともに、定番の解法に関してなぜそのような解法なら正確に結びつくのかといった解法の選択のポイントを解説します。授業内で基礎チェックのための確認テストも行います。</p>
<p>看護医療系・センター数学IA</p>	<p>数学IAの内容から出題される看護医療系大学の入試問題に対応するための力を養う講座です。基本公式の確認から始め、入試頻出問題の演習を行うことでこれらの単元をマスターします。確かな知識と問題演習を繰り返すことで得点を取る力は身につきます。センター数学IAの対策にもなりますので、ぜひ受講してください。</p>
<p>センター数学ⅡB</p>	<p>センター試験に向けて「三角関数と指数・対数関数」「微分法と積分法」「数列」「ベクトル」について、センター形式の問題演習と解説を行います。センター試験の数学、特にⅡBで要求される速く正確な計算力や問題の流れの把握に必要なテクニック、着眼点について詳しく解説し、高得点を目指します。</p>
<p>現代文</p>	<p>国語の答案作成に不慣れであることを前提に「7割を取る答案」を目指します。選択肢を吟味して確実に絞り込むテクニックは、文系志望者には必須です。マーク式問題への対応を中心に授業を行い、論述型問題にも合格点が取れる答案作りを指導します。</p>
<p>古文</p>	<p>さまざまな入試の問題文を扱うことで、出題形式を知るとともに、古文読解の基礎となる単語力と文法力を整理・強化していきます。また、この基礎力を土台とした、長文の読解方法(人物把握法など)や客観問題の選択肢の絞り込み方を指導します。</p>
<p>VOD 古典文法復習講座A(用言・助動詞編)</p>	<p>文法知識の補強を図りたい方のための映像講座です。用言・助動詞を単元として、「ポイント講義→演習→解説」の形式で、各単元の基礎事項の理解を深め、選択式の文法問題から短文現代語訳問題まで解答できる実力を養います。文法問題の正答率を高めることは読解力の向上にも繋がるので、この講座で「使える知識」を習得しましょう。</p>
<p>VOD 古典文法復習講座B(助詞・敬語編)</p>	<p>文法知識の補強を図りたい方のための映像講座です。助詞・敬語を単元として、「ポイント講義→演習→解説」の形式で、各単元の基礎事項の理解を深め、文法問題を解答できるだけでなく、読解に活かす文法力を養います。受験生の力の差が如実に見える単元だからこそ、この講座で「使える知識」を習得しましょう。</p>
<p>VOD 古典文法復習講座C(識別・和歌の修辭法編)</p>	<p>文法知識の補強を図りたい方のための映像講座です。「識別」では演習と解説を通じて文法の総整理を行い、「和歌の修辭法」では丸暗記に頼らず文法力を正しく使っての習得を図ります。国公立大や難関私立大を志望者はこの講座で、古文の得点力を身につけましょう。※基礎を定着させたい人は、用言・助動詞編、助詞・敬語編を受講してください。</p>
<p>物理 180分</p>	<p>原理や公式の意味を知ることによって物理現象を理解し、正しい式を立てることが重要です。一つひとつの現象を確実に理解していくことで、複雑な物理現象も解き明かすことができるのです。この講義では「波動」を単元とし、原理や公式の意味を理解して、どのような思考で問題に解答するのかを学びます。</p>
<p>化学「有機化学演習」 180分</p>	<p>高分子化合物を除く有機化学の全範囲の演習を行います。有機反応の基礎を一通り解説し、実際の標準レベルの入試問題を通じて実戦力を養成します。有機は理論・無機に比べると確実に得点できる分野ですので、頻出である構造決定を中心に解説していきます。</p>

高3

<p>生物</p>	<p>生物の頻出単元に絞った問題演習講座です。基本事項の理解と暗記が必須ですが、問題演習を通して、不確かな部分を明らかにし、知識をより確実なものとします。</p>
<p>日本史</p> <p>180分</p>	<p>大学入試で日本史を必要とするすべての方を対象とする講座です。江戸時代後半を単元として講義を行います。政治体制が整い成熟期に入ったかに見えた幕府だが、次第に封建体制に揺らぎが生じ、幕末期へと向かっていく過程を追います。幕府が揺らぐ要因とは何か。様々な角度から眺め、理解を深めます。※通年カリキュラムの一環です。</p>
<p>VOD</p> <p>日本史：文化史特講A(古代)</p>	<p>大学入試で日本史を必要とするすべての方を対象とする映像講座です。古代文化(古墳、飛鳥、白鳳、天平、弘仁貞観、国風、院政期)を扱います。文化史用語は膨大な数がありますが、それでも文化「史」というからには「流れ」が必ずあります。政治・社会経済・対外関係など通史の流れをしっかりと関連付けることで文化史を「理解」して、武器にしましょう。</p>
<p>VOD</p> <p>日本史：文化史特講B(中世～近世前半)</p>	<p>大学入試で日本史を必要とするすべての方を対象とする映像講座です。中世～近世前半の文化(鎌倉、室町、安土桃山、寛永、元禄文化)を扱います。武家政権の誕生、ヨーロッパとの出会いなど、古代史とは異なる特徴をもつ時代だからこそ、通史の流れをしっかりと関連付けることで、文化「史」を理解するだけでなく、通史の知識の底上げも図ります。</p>
<p>VOD</p> <p>日本史：文化史特講C(近世後半～近現代)</p>	<p>大学入試で日本史を必要とするすべての方を対象とする映像講座です。近世後半～近現代の文化(化政、明治、大正、昭和、現代の文化)を扱います。現役生の多くが時間をかけないまま本番を迎えるこの単元を、得点源にすることは大きな武器になります。通史の流れをしっかりと関連付けることで文化「史」を理解するだけでなく、通史の知識の底上げも図ります。</p>